

道徳学習指導案

日 時 平成 27 年 11 月 6 日 (金)

学 級 3 年 A 組 (男子 12 名 女子 20 名 計 32 名)

授業者 中村 功佑

1 主題名 母校を愛する【4－(7)愛校心 校風の樹立】

2 資料名 「V6をめぐして」(出典『中学道徳3 明日をひらく』東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

本時の授業は、内容項目4－(7)「学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。」ことを目指すものである。

中学生にとって、生活の大半を過ごす学級や学校が、重要な生活の場となっている。したがって、自分の学級、自分たちの学校に愛着や誇りをもつことは大切なことである。学級や学校における教師や学校の人々に目を向け、感謝や尊敬の気持ちをもてるようになることは、人間としての成長を促すこととなる。

学校には、それぞれ独自の校風があるが、それは先輩たちの長年にわたる努力によって培われたものであり、後輩たちが、それを継承し、更に協力し合って、よりよい校風へと発展させることが大切である。

そのために、生徒同士、生徒と教師や学校の人々との人間関係を深めたりする様々な体験を通して、生徒に学校に対する愛着やよりよい校風の樹立と発展に努める態度を育てたいと思い、この主題を設定した。

(2) 生徒について

本校では毎年有志の3年生が「ソーラン隊」を結成し、「長中ソーラン」を地域に発信している。本学級からも多くの生徒がソーラン隊に参加し、誇りを持ってソーランを踊っている。今年度は修学旅行において東京の中学校とソーラン交流会を行い、本校の活動を紹介する中でこれまでの歴史と伝統を振り返ることができた。また本校では「あいさつ・合唱・清掃」を三大活動と位置づけ、学校の伝統として力を入れて活動している。

卒業まで残り5カ月となり、これまで引き継いできた伝統を次の代に伝える時期にきている。本教材を通して伝統とは何かを改めて考えることで学校に対する愛着を深め、卒業に向けてよりよい校風の樹立と発展に努める態度を養いたい。

(3) 資料について

本資料は、駅伝の候補選手に選ばれながらも、練習に参加するべきか辞退するべきかを悩む主人公をもとにした葛藤資料である。一度は辞退しながらも、周囲の励ましや、学校の伝統を守ろうという思いから考え直し、練習に参加した主人公の心情を考えることを通して、愛校心とその在り方に気づかせたいと考えた。また、主人公の心情を考えたり、変容をとらえたりすることを通して、母校を愛し、学校の伝統を守ろうとする態度を養いたい。

4 他の教育活動との関連と補充・深化・統合の視点

生徒は社会科公民の授業で、自分たちの生活は受け継がれてきた多くの伝統や文化とともに成り立っていることを学習している。

日常の活動においては、ソーランの発表を通して、地域に学校の伝統を発信することを経験している。その活動を想起し、今後卒業までに自らができることを考えられるように指導していきたい。

本時の指導は、これまでの学習や日常活動の経験の深化を図る視点で行いたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

「ぼく」の心情を考えることを通して、母校を愛し、学校の伝統を守ろうとする態度を育てる。

(2) 本時の評価

道徳的実践 意欲・態度	母校を愛し、学校の伝統を守ろうとしている。 【生徒の記述例】 学校で受け継がれる伝統は、それに直接関わる人だけでなく、その学校に通うすべての人が何らかの形で関わり、繋いでいくものだとなった。私たちは今年、長中ソーランの歴史を学び直し、修学旅行での交流会を通して、さらにソーランに対する思いを深めることができた。最後の発表の場となる引き継ぎ式で、しっかりとこの思いと踊りを1、2年生に引き継ぎたい。
----------------	---

(3) 展開

段階	学習活動と主な発問 ◎：中心発問	期待する生徒の反応	留意点・評価
導入 2分	1. 長内中学校の伝統について想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラン。 ・合唱。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、ソーラン長内中学校の伝統と考えていることを確認する。
展開 3分 3分	2. 資料を読む 3. 「ぼく」の心情について考える。 駅伝の候補選手として名前を呼ばれた「ぼく」はどんな気持ちだったか。 4. 「ぼく」の心情について考える。 ◎一度は辞退した「ぼく」が、やはり参加しようと決意したのはどんな思いからか。 5. 「ぼく」の心情について考える。 父の話を聞いて「ぼく」はどう思ったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・候補選手として名前を呼ばれて嬉しい。 ・V6がかかっている今年、自分の力を認められて選抜されたので誇らしい。 ・この夏は勉強に集中しようとしていたが、どうしよう。 ・父に講習会に行く許可をもらったのに、練習に参加して良いのだろうか。 ・受験までまだ日にちがあるから大丈夫だ。 ・今までも部活と勉強を両立してきたからできるはずだ。 ・たくさんの人が辞退していて心配。 ・全校生徒から選抜された選手が走るという伝統を守るため。 ・駅伝練習に参加することを父に応援されて嬉しい。 ・南中の駅伝が父の代から始まっていることを知って驚いた。 ・グラウンド整備や応援など、選手として走ること以外でも伝統に関わる人がいるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」が抱えている迷いをおさえる。 ・「南中の伝統は何か」と切り返し、「ぼく」が南中の伝統をどのように捉えているかを深める。 ・「ぼく」が、選手だけでなく学校全体の関わりがあって南中の伝統になっていることに気づいたことをおさえる。
終末 1分 5分	7. 教師の説話を聞く。 ・ソーランのVTRを鑑賞する。 ・引き継ぎ式についてふれる。 8. 価値について考えたことを書く。 ・考えたことを発表する。	学校で受け継がれる伝統は、それに直接関わる人だけでなく、その学校に通うすべての人が何らかの形で関わり、繋いでいくものだとなった。私たちは今年、長中ソーランの歴史を学び直し、修学旅行での交流会を通して、さらにソーランに対する思いを深めることができた。最後の発表の場となる引き継ぎ式で、しっかりとこの思いと踊りを1、2年生に引き継ぎたい。	【道徳的实践態度・意欲】 母校を愛し、学校の伝統を守ろうとしている。

(4) 資料分析表

主題名	母校を愛する		資料	V6をめざして
本時のねらい	「ぼく」の心情を考えることを通して、母校を愛し、学校の伝統を守ろうとする態度を育てる。			
主たる場面	主人公の心の動き	指導の意図	発問 ◎：中心発問	期待する生徒の反応
「田中」と、ぼくの名前が呼ばれたとたんに、胸がどきどきし、顔がほてった。	<ul style="list-style-type: none"> ・候補選手として選ばれてほこらしい。 ・父に講習会に行く許可をもらったのに。 ・練習と勉強が両立できるか不安だ。 	「ぼく」の立場に立って考え、駅伝練習に参加することへの迷いを推測できるようにする。	<p>駅伝の候補選手として名前を呼ばれた「ぼく」はどんな気持ちだったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・候補選手として名前を呼ばれて嬉しい。 ・V6がかかっている今年、力を認められ選抜されたので誇らしい。 ・この夏は勉強に集中しようとしていたが、どうしよう。 ・父に講習会に行く許可をもらったのに、練習に参加して良いのだろうか。
「先生、さっきやめるって言いましたが、お願いします。」ぼくは胸のつかえが一度において、気持ちがすっきりした。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけ考えて伝統を途切れさせていいのか。 ・今までだって部活動と両立してきたのだから、やってみよう。 ・先輩が築いてきた伝統を守るためにやってみよう。 	「ぼく」が南中の伝統をどのように捉えているかを考えられるようにする。	◎一度は辞退した「ぼく」が、やはり参加しようと思決意したのはどんな思いからか。	<ul style="list-style-type: none"> ・受験までまだ日にちがあるから大丈夫だ。 ・今までも部活と勉強を両立してきたからできるはずだ。 ・たくさんの人が辞退していて心配。 ・全校生徒から選抜された選手が走るという伝統を守るため。
ぼくはちょっと胸がつまって、すぐに言葉が出ず、だまっとうなずいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツが盛んという伝統は、父が通っていたころから始まっていることを知った。 ・父もグラウンド整備や応援という形で伝統に関わっている。 	南中の伝統を受け継いでいこうと決心した「ぼく」が、父の話聞いて学校全体が関わっていることを知り、更に決心を深めたことをおさえる。	父の話を聞いて、「ぼく」はどう思ったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・父に駅伝練習に参加することを応援されて嬉しい。 ・南中の駅伝が父の代から始まっていることを知って驚いた。 ・グラウンド整備や応援など、選手として走る以外でも伝統に関わる人がいるのか。